

# 男子ハンドボール競技における数的不利な状況の有効的な攻撃について

—学生レベルと世界レベルを比較して—

山手 就策 (201012069, ハンドボールコーチング論)

指導教員：藤本元, 會田宏, 山田永子

キーワード： 学生レベル, 世界レベル, 数的不利時の攻撃

## 【目的】

現代のハンドボールは退場回数が増えただけでなく, 相手やチームや審判から圧力をかけられるため, 退場中の2分間の攻撃回数も増えている. このことから数的不利な時間帯に時間を稼ぐのではなく, 得点するということが目標となってきている.

そこで本研究では, 学生レベルと世界レベルにおけるそれぞれの数的不利時の攻撃の特徴を明らかにするとともに, 学生レベルと世界レベルの比較を行い, 数的不利時の有効的な攻撃方法や, 新たな戦術の可能性を探り, 今後の自身の競技力の向上, また指導の際の一指針とすることを目的とする.

## 【方法】

学生レベルの分析では 2013 年関東学生ハンドボール男子春季リーグ 120 シーン, 世界レベルの分析では 2013 年男子世界選手権大会 133 シーンを研究対象とした. 分析項目は, 防御隊形, きっかけ, 最終プレー, シュートの種類, プレー結果である.

データの処理方法は競技レベルと分析項目との関係, さらにプレー結果と分析項目との関係を明らかにするために, 学生レベルと世界レベルに分けて, それぞれカイ 2 乗検定と残差分析を行った. いずれの分析においても, 有意水準は 5%で行った.

## 【結果】

本研究の結果, 以下の 5 点が明らかになった.

(1) 学生レベルは, 1 試合平均 3.9 回退場し, 7.1 回は数的不利な状況の攻撃を行っており, 世界レベルは, 1 試合平均 7.2 回退場し, 13.3 回は数的不利な状態の攻撃を行っている.

(2) 数的有利時の DF 隊形において, 学生レベルは世界レベルに比べて, 3・2・1DF, 5・1DF などのラインの高い防御隊形が有意に多かった. いずれのレベルもプレー結果との関連はなかった.

(3) きっかけにおいて, 学生レベルは世界レベルに比べて, クロスプレー, システムチェンジを有意に多く, 世界レベルは学生レベルに比べて, 1 対 1 と速攻が有意に多かった. 有意な差は認められないが, いずれのレベルもポストインの生起数は他の項目に比べて多かった. いずれのレベルもプレー結果との関連はなかった.

(4) 最終プレーにおいて, 学生レベルは世界レベルに比べて, クロスプレーが有意に多かった. 有意な差は認められないが, いずれのレベルも 1 対 1 の生起数は他の項目に比べて多かった. いずれのレベルもプレー結果との関連はなかった.

(5) シュートの種類において, 学生レベルは世界レベルに比べて, ロングシュートが有意に多く, 世界レベルは学生レベルに比べて, ミドルシュートが有意に多かった. 有意な差は認められないが, 世界レベルは学生レベルに比べて, 速攻のシュート本数が多かった. 学生レベルにおいて, ポストシュート時の 7m スロー獲得が他の項目に比べて有意に多かった.

## 【考察と実践現場への提言】

(1) 1 人少ない数的不利の状況での攻撃回数が多いにもかかわらず, 数的不利時の状況での攻撃練習があまり行われていない. 数的不利時の攻撃練習を増やし, チーム内でイメージを共有しておく必要があると考える.

(2) システムチェンジ, クロス, ポストイン (パスを受ける為だけに行うのではなく, ポストインした後, 再び自身のポジションに戻る) などのきっかけでポジションをかえながら, 攻撃することで防御を揺さぶれる可能性が高まる.

(3) ポストシュートは, シュートの成功確率が高いだけでなく, 7m スロー獲得の可能性も他のシュートに比べると高いため, ポストにパスを通す攻撃が有効である.

(4) GK のセーブ, 相手のミス, パスカットなどでボールを獲得した場合には, 積極的に速攻を狙うことで得点する可能性が増える.

表3 きっかけと競技レベルとの関係

		学生	世界	合計
遅攻	1 対 1	5 (4.2%)*	28 (21.1%)#	33 (13.0%)
	クロスプレー	51 (42.5%)#	31 (23.3%)*	82 (32.4%)
	ポストイン	46 (38.3%)	56 (42.1%)	102 (40.3%)
	フォーメーション	2 (1.7%)	2 (1.5%)	4 (1.6%)
速攻	システムチェンジ	12 (10.0%)#	2 (1.5%)*	14 (5.5%)
		4 (3.3%)*	14 (10.5%)#	18 (7.2%)
合計		120 (100%)	133(100%)	253 (100%)

カイ 2 乗値 = 34.009,  $p < 0.05$

# 残差分析の結果 1.96 より大きい

\* 残差分析の結果 -1.96 より小さい